

大崎地域を世界農業遺産へ

vol.8 大崎地域世界農業遺産推進シンポジウムを開催します

先人の絶え間ない努力と知恵が育んできた豊饒の大地「大崎耕土」。世界農業遺産が目指すものを市民の皆さんと共有し、豊かな農業農村の価値を再認識するために、シンポジウムを開催します。その価値をより高め、未来の子どもたちへ継承する取り組みについて学び・考えましょう。



【問い合わせ先】産業政策課
世界農業遺産推進室
☎ 23-2281
sangyo@city.osaki.miyagi.jp

日時 2月13日(土) 13時~16時
会場 芙蓉閣 (大崎市古川駅前大通6-2-8)

定員 200人
内容 ▶ 基調講演

世界農業遺産 ~注目される日本の里地里山~
講師: 国際連合大学上級副学長 武内 和彦 氏

▶ 事例紹介

宮城大学名誉教授・NPO法人あくりねっと21
理事長 加藤 徹 氏

NACS-J自然観察指導員 親川 麗子 氏

やくらい土産センターさんちゃん会

代表理事組合長 加藤 重子 氏

大崎市教育委員会文化財課 車田 敦 氏

▶ 未来に伝えたい大崎耕土が育む生物多様性

発表者: おおさき生きものクラブ

申込 2月10日(水)まで、氏名・電話番号・参加人数を明記し、
メール、ファクスのいずれかで産業政策課へ申し込み

☎ 23-7578 sangyo@city.osaki.miyagi.jp



武内 和彦 氏

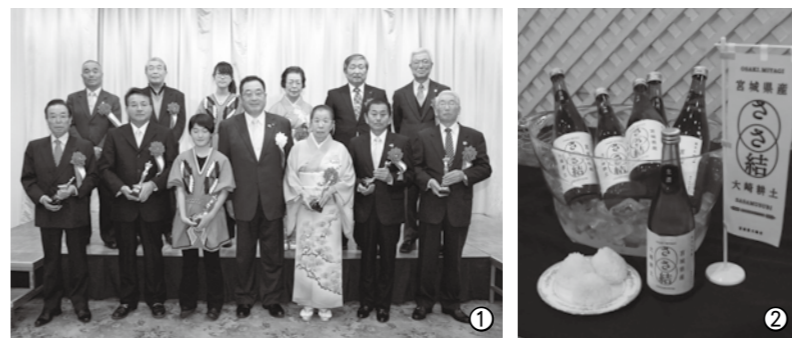
1974年東京大学理学部地理学科卒業、
1976年同大学院農学系研究科修士課程
修了。東京大学国際高等研究所サステイ
ナビリティ学連携研究機構(IR3S)機構
長・教授。国際連合大学(UNU)上級副学長、国際連合事
務次長補を併任。日本学術会議会員、食料・農村
政策審議会会長代理なども務める。著作に「世界農業
遺産 注目される日本の里地里山」(祥伝社新書)など



四季折々の美しい景観



生きもの豊かな田んぼ



①宝の都(くに)活性化貢献賞受賞団体の皆さん ②試験醸造したささ結の日本酒も振る舞われました ③会場からの「よいしょ!」のかけ声に合わせて鏡開き



団体名	活動概要
古川地域 公衆衛生組合連合会	共同防除作業や統一清掃、花いっぱい運動など、住民の生活環境の保全と公衆衛生の向上に貢献
大崎市古川地域 認定農業者連絡協議会	生産者と消費者の交流を図り、古川産農畜産物の消費拡大に寄与
大崎市祥雲閣 茶道連盟	祥雲閣における茶会や体験教室、来賓者へのもてなしなど、市の茶道文化の振興発展に寄与
すばらしい 松山地域協議会	長年にわたり花いっぱい運動を進め、松山地域の地域づくりに貢献
岩出山 地域づくり委員会	地域自治組織の基盤形成と市民協働によるまちづくりを実践
大崎市立鹿島台小学校 プラスバンド	マーチングバンド全国大会に2年連続出場し、平成27年は金賞を受賞するなど、音楽の聞こえる都市(まち)づくりを実践

あたらしい年の門出を祝う

- ▶ 第8回宝の都(くに)活性化貢献賞贈呈式
- ▶ 新春講演会
- ▶ 新年祝賀会

1月4日、芙蓉閣を会場に「第8回宝の都(くに)活性化貢献賞贈呈式並びに新春講演会」と「新年祝賀会」が開催されました。第8回宝の都(くに)活性化貢献賞贈呈式では、市民活動の普及や創意と工夫で地域活動を促進している6団体に貢献賞を贈呈しました。

光振興ビジョン策定委員会の委員長を務めた宮城大学教授 宮原 育子 氏に講演をいたいただき、大崎市のさまざまな魅力と、今後の観光振興に向けた力強いエールを送っていただきました。新年祝賀会には500人を超える市民・団体の皆さんが参加し、合併10年を迎える年の夢や抱負を語り合いました。

ふるさと納税

あたたかい支援をいただきありがとうございました

ふるさと納税制度は、自分が生まれ育った「ふるさと」に貢献したい、自分との関わりが深い地域を応援したいといった気持ちを形にする制度です。

平成27年は、澤口 希能さん(大阪府茨木市在住)から1,000万円、高橋 直典さん(仙台市在住)から200万円、方 永義さん(東京都品川区在住)から200万円のふるさと納税をはじめ、全国の皆さんから約8,200件、総額で1億8千万円を超える多額のふるさと納税をいただきました。本当にありがとうございました。

皆さんからいただいたふるさと納税は、指定された用途に従い、市のさらなる発展に活用します。ふるさと納税をいただいた皆さんの期待に応えられるよう、まちづくりを進める原資とさせていただきます。

◎政策課行政改革担当 ☎ 23-2129

皆さんからいただいたふるさと納税の使い道

- ①明日の大崎市を担う人材育成のための事業
子育て支援、幼児教育の充実、小・中学校の教育環境の整備など
- ②おじいちゃん、おばあちゃんが安心して暮らすための事業
福祉サービスの充実、地域医療の充実、防災・防犯対策など
- ③活力ある大崎市をつくるための事業
産業振興、観光PR、都市基盤の整備、移住・定住の促進など
- ④大崎市の宝を次世代に継承するための事業
鳴子峡や蕪栗沼などの環境保全、伝統・文化の継承など
- ⑤ふるさと大崎市応援のための事業
市長が使途を決定
- ⑥その他使途指定
寄附者が具体的な使途を指定

市長コラム 天・地・人

震災5年目成人式での思い



1月10日、1164人の新成人の門出を祝福しました。今年の成人者は、5年前の3月11日、震災により卒業式当日に被災したり、翌12日の卒業式が延期になった人たちです。被災後は、余震に怯えながらも、震災復旧や被災者支援に取り組み、命の尊厳と安全の大切さを実感し、仲間との絆や連携を確かめ合いながら過ごした5年間だったことでしょうか。この度の成人式には、特別の思いを抱いて臨まれたのではないのでしょうか。

成人者を祝う儀礼は、奈良時代に起こった「元服」に始まる日本特有の風習です。今日の形態の成人式は、敗戦により社会が虚脱状態にある中で、次代を担う青年たちに明るい希望を持たせ、励ますため、1946年昭和21年に、埼玉県蕨町において実施された「青年祭」が原型です。その後、全国に広がり、国が祝日法により「大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い励ます」という趣旨のもと「成人の日」を制定し今日に至っています。

代表者による「誓いの言葉」では、震災を乗り越えて、未来に向かって歩む決意を新たにしていました。

「青年」の語源は、「青雲の志を持つ年頃」です。選挙権も18歳に引き下げられ、青年が変革の主体者としての自覚を高める契機です。

わたしたちは、新成人という立場から復興まちづくりを進めたいことや、合併10周年を迎えた大崎市の、新たな10年への第一歩を共に歩もうと呼びかけました。

新成人には、高い志を持って、自分の夢実現のために努力すると共に、新時代創造のチャレンジャーとなることを期待しています。

大崎市長 伊藤 康志